

# 「甲斐の国」から 「開の国」へ進化する山梨県

攻めの県政を行いながら、「県民一人ひとりが豊かさを実感できるやまなし」を!と熱く語る山梨県知事・長崎幸太郎氏に、中部横断自動車道が山梨にどんな未来をもたらすのか詳しく伺つた



山梨県知事 長崎幸太郎氏

将来的に中部横断自動車道の北部区間が繋がれば、もうひとつの中華人民共和国の上海港とも繋がります。その先はヨーロッパ大陸です。ヨーロッパ大陸から鉄道でヨーロッパまで一気に繋がつて行くわけです。鉄道のほうは航空便より遙かに安いですし、全行程船便よりずっと早く運べます。

清水港や横浜港についても同じことが言えます。港の先は北アメリカや東南アジアと繋がっていますから、まさにこの中部横断自動車道を介して我々の山梨県がヨーロッパやアジア、そしてアメリカを結ぶ物流の「クロスボイント」になつて行くわけです。

清水港や横浜港についても同じことが言えます。港の先は北アメリカや東南アジアと繋がっていますから、まさにこの中部横断自動車道を介して我々の山梨県がヨーロッパやアジア、そしてアメリカを結ぶ物流の「クロスボイント」になつて行くわけです。

## 地域産業にも大きな効果

実は大手製材メーカーや化粧品メーカーの工場や物流拠点の新設。それに伴う雇用の創出など、新しい道路の開通を見越した投資は多くの民間事業者によつて既に始まつています。

## 海と空の両方を手に入れれる

中部横断自動車道の開通が山梨県にもたらす影響はたいへん大きなものになります。場合によっては中央自動車道の開通を上回るインパクトになるかも知れません。山梨県がそれまで願つても得られなかつた二つのものを同時に手に入れることになるからです。それは「海」と「空」。世界へ続くゲート、港と空港への好アクセスです。

新しい道路の開通は一見、山梨県と静岡県が高速道路で繋がるだけのよう見えます。

す。また、山梨県の主要産業である電子機械産業の技術を医療機器関連産業へ応用する「メディカル・デバイス・コリドー」を進

めながら静岡県東部の医療関連産業集積地フアルマバレーとの連携も深めております。中部横断自動車道によつて静岡県西部と繋がると、またさらに別の連携が見えてきます。例えば浜松の工業地帯や光産業と山梨県の電子機械産業の連携であつたり、あるいは現在、産学官金で進めている「やまなし水素・燃料電池バレー」構想と静岡県の自動車産業との連携。そして静岡県の先には名古屋がありますから、愛知県の自動車産業と連携する可能性も十分視野に入つてきます。

農業にとつてもダイレクトな影響があります。現在、清水港では農産物の輸出促進に向け、一定温度に保てるコンテナを整備中ですが、我々も今より多くの青果を輸出していく予定です。特にブドウや桃をより多く、より付加価値の高いものとして提供し、同じ生産量でも単価を上げることが目標です。そのためには朝採れたブドウをその日のうちに高速道路で港や空港に運び、海外に送るなどというビジネスも可能になるでしょう。

**災害に強く、観光にも強く**

令和元年には豪雨により国道20号と中央自動車道が海と空に開かれた「開の国」へと進化していくのです。



海や空のゲートへのアクセスがよくなり、山梨県は大きく変わろうとしている。

動車道が被災し、東京方面への人流や物流が1週間に渡り寸断されることがありました。しかし、中部横断自動車道の開通により災害時に信頼できる広域迂回路が確保され、このようなリスクが少なくなります。それだけで山梨県は南海トラフ地震による津波の心配がありますが、その際に内陸の山梨県が防災拠点や企業のBCP拠点として貢献できると考えています。災害に強い山梨県の魅力を発信することも可能にならうとしているのです。

観光についても山梨県の評価が大きく変わつていくと思います。中部横断自動車道が開通すると、海から1時間も走れば八ヶ岳の雄大な自然が迫つて来ます。世界的な視野にてば、海から1時間で辿り付ける観光地といふのはほどんど海岸地域と一緒です。そこに三千メートル級の山々と澄んだ空気、美しい森と清らかな水があるので、これほど魅力的な条件が揃つた観光地もなかなか見つからないでしょう。

不思議なもので海にはひとを惹きつける力があります。我々は信玄公の時代からこの海をずっと目指してきましたが、その想いがまさに実現しようとしています。「甲斐の国」が海と空に開かれた「開の国」へと進化して

# 道路インフラ整備は

# 山梨県経済発展の起爆剤

県内の企業経営者が業種の垣根を越えて集い、

山梨県の経済発展のための政策提言を行う

山梨経済同友会。

道路整備によつて生まれる

多様なビジネスチャンスに期待が寄せられています。



山梨経済同友会 代表幹事

中部横断自動車道部会 部会長

中部横断自動車道部会 副部会長

入倉 要 氏

五領田 周司 氏

依田 光人 氏

ていきたいと思っています。

**若き起業家を育てる**

**「つばさを広げる会」**

入倉・山梨経済同友会が最近力を入れているのが、若き起業家を育てる取り組みです。最近の若者は安定志向といわれていますが、ぜひ大きな夢を持つてほしい。そこで県内の5つの大学と山梨県、そして我々が連携し、「つばさを広げる会」を立ち上げました。優秀な大学生150名を集め、一流の経営者を招いて、起業するまでのストーリーを失敗談も交えながら話してもらっています。ここで刺激を受けて、自分もいつか故郷で一旗揚げたいと思う若者が出てくるといいですね。

**中部横断自動車道の開通で山梨県を広域経済圏の中心に**

入倉・山梨県民が待ち望む中部横断自動車道は、残りの「下部温泉早川IC―南部IC間」(13・2km)が全線開通に向け開通する見込みで、山梨(双葉)から静岡まで全通します。山梨―静岡間の移動が1時間も短縮され、国道52号線の高規格代替路として、また中央自動車道と東名高速の接続高速道路として、山梨県への様々な効果が期待されています。

依田・中部横断自動車道は自然災害時の緊急

輸送路、避難路としての役割も担っています。

山に囲まれた山梨県では平成26年の豪雪で県内全域がほぼ孤立状態となりました。今後も大雪や台風などで中央自動車道が封鎖されたときの代替路として、県民の安全を守る大きな支えとなってくれるでしょう。

入倉・中部横断自動車道は静岡、山梨、長野を結ぶ路線であり、山梨は日本海と太平洋、東京圏と中京圏とを結ぶ高速道路が交差するクロスピントとなる地域となり、大きなビジネスチャンスを生みます。また2026年にはリニア中央新幹線も開通し、甲府―品川間がわずか25分、甲府―名古屋間が40分ほどでつながる大広域経済圏が生まれます。このチャンスをいかし、県全体の新たなグランドデザインを発表し、全国にPRすることが重要です。

**中部横断自動車道の経済効果は135億円**

入倉・中部横断自動車道の経済効果は135億円と、2018年山梨大学と共同記者会見で発表しました。

五領田・きれいな水や空気、自然に恵まれた山梨は精密加工や医療器具などの工場にも最適なポテンシャルのある場所です。すでに医師会や医療機関と連携し、医療健康産業クラスターを形成する計画も進んでいます。中部

横断自動車道の開通で物流が効率化すること

で、工場の誘致にもつながるはず。コロナの影響で海外の生産拠点が日本に移れば、山梨

も活性化し、大きな経済効果が期待できます。

依田・コロナ禍で地方にオフィスを構える動きも活発化し、大きな経済効果が期待できます。

入倉・自然豊かな山梨で子育てをしながら月に数回都心へ出勤するという形態の広まりと

共に、定住人口の増加にもつながります。

入倉・観光面でも山梨には様々な特色を持つ市町村があり、各々単独で頑張っていますが、個々の点では魅力があつても来訪しにくい。点が道路という

うきつかけにはなりにくい。点が道路といふ線でつながり、面としての地域の魅力が伝われば観光で訪れる方も増えると思います。開通で関西圏からのアクセスも良くなり、静岡経由で来られるようになればさらに集客が見込めます。さくらんぼや桃など、季節の果物狩りもぜひ楽しんでいただきたいですね。

この状況は山梨にとって千載一遇のチャンスです。ただ、道路が開通したとしても、すべてが良くなるわけではありません。皆が豊全民員がワンチームとなつて考え、行動していかに暮らせるためにはどうすればよいか、県民全員がワンチームとなつて考え、行動していくことが今求められています。山梨経済同友会では、中部横断道が山梨県経済発展の起爆剤となる活動を今後行つてきます。

**女性もイキイキと働ける  
山梨県を目指して**

# 中小企業のイノベーションが山梨を変える

山梨県産業の元気創出のため  
チャレンジする企業を支援する

やまなし産業支援機構。

人・モノの交流や企業の連携を  
促し、県内の中小企業に

イノベーションを巻き起こす

道路整備に期待が高まっています。



やまなし産業支援機構 理事長

手塚 伸氏



「長野・静岡・山梨連携ものづくり商談会  
in NAGOYA」  
(3県ものづくり連携商談会)  
開催日:令和元年9月19日(木)  
場所:ウイングあいち8F展示場

## 中小企業の経営革新を伴走支援

やまなし産業支援機構は新規開業や新分野への進出、事業の多角化など、経営革新を推進している中小企業者の皆様に対し、総合的な支援を行う公益財団法人です。山梨県や市町村が主な出資者で、会員制ではなく、幅広く地域の利用者の皆様の事業活動に対する支援をしています。

具体的な活動の一例として「中小企業経営革新サポート事業」があります。これは経営革新を目指す県内の中小企業者を支援するため、地域の商工団体や金融機関、行政機関がタッグを組んで、やまなし産業支援機構内に拠点を設置し、合議制で個々の案件の支援方針を決定します。IT、食品産業、財務など、それぞれの分野に強いスペシャリストが10人、サポートメンバーワーとして入っています。その中から相談内容に応じた専門家チームを派遣して、課題の解決に向けた指導や助言を行っていく事業です。

この他にピンポイントな課題を解決する「専門家派遣事業」というのもあります。経営者の

大きな夢を実現するお手伝いは中小企業経営革新サポート事業、当面の具体的な課題を今すぐ解決したいという場合は専門家派遣事業というようにすみ分けしています。いずれも出口を見据えて相談者の皆様に寄り添いながら、自らの課題解決に向け伴走型の支援を行います。

## 世界に羽ばたく 山梨県の地場産業

山梨県には多種多様な産業があります。まず、機械電子産業では、「マザーマシン」と呼ばれる半導体やロボットなどのモノを作るための機械や、完成した装置等が正常に動くかどうかを検査する機械などを作る優良企業がたくさんあります。これらの技術は近隣諸国にも簡単に貢献でできないもので、各企業の長年の開発努力の賜物です。

また、ファッショニ産業も盛んで、富士吉田の先染め織物は数十年前からフランスやイタリアに生地を展開していますし、甲州印伝という鹿革に漆で模様をつけた皮工芸品も英国王室御用達の老舗ブランドのクリエーション・コレクションなどが有名です。

## 中部横断道開通が 医療機器産業の可能性を開く

中部横断自動車道の双葉—清水間が開通すれば、従来の東西の軸に、中部横断道で新たに南北の軸が加わることにより、静岡、愛知や関西方面へのアクセスが格段に向上し、ビジネスチャンスの拡大に期待が寄せられています。

平成13年から「中央自動車道沿線地域産業クラスター計画」を進めてきました。これは山梨県と長野県の中央自動車道沿線地域における精密機械産業等の集積ポテンシャルを活かし、ネットワークの形成を促進し、企業ニーズの把握と技術力のある企業に対しても効果的な関連施策を投入することを目標にしたものでした。この際、技術交流、人材交流、円滑な物流を進めるため、高速道路網の存在が重要でした。お隣の静岡県にも浜松や沼津など、親和性の高い精密機械や医療機器、自動車の産業集積地が点在しているので、今回の開通により、技術交流や人的交流が盛んになれば、互いに連携してイノベーションを起こせる可能性が更に高まります。最近は

2019年3月には、長崎知事の肝いりの「メディカル・デバイス・コリドー推進計画」がスタートしました。これは山梨県の機械電子産業における優れた技術を医療機器関連分野に活用し、医療機器関連産業を甲府盆地から静岡県東部の医療産業集積地「ファルマバレー」を結ぶ一帯に集積する「メディカル・デバイス・コリドー構想」を実現するために策定されたものです。中部横断道の開通によって、中央自動車道から中部横断道、第二東名高速道路、東富士五湖道路へと回廊ルートがつながるということで、コリドーと名付けられました。やまなし産業支援機構内にはその推進センターを設置し、医療機器関連産業への参入の相談窓口として、専任のコーディネーターが開発から部品供給、販路拡大まで、様々なステージに合わせた支援を行っています。将来はヘルスケア産業が機械電子産業に並ぶ県内的一大産業へと発展することを期待しています。インフラ整備によって人やモノ、情報が行き交うことで生まれるチャンスを活かして、明日のイノベーションを作っていくましょう。